

# 令和4年度（2022年度）公共事業再評価調書

（様式3）

基準年月日 令和4年8月1日

調書番号	08-06	所管部	建設部	作成責任者	土木局河川砂防課長 松田 哲夫
				担当係	河川計画係（内）29-323

## I 基本事項（基準日時点）

事業種別	広域河川改修事業費（社会資本整備総合交付金）								
地区名	阿野呂川	市町村名	栗山町	総事業費	6,738 百万円				
負担割合	国	66.7%	道	33.3%	市町村	—	その他	—	
	4,492 百万円		2,246 百万円		— 百万円		— 百万円		
事業目的・目標	<p>●阿野呂川は、石狩川水系タ張川に合流する一級河川で、H6年（1994年）8月、H8年（1996年）8月、H9年（1997年）8月、H10年（1998年）9月などの洪水により、家屋浸水など多大な被害が発生した。</p> <p>●このため、H11年（1999年）より当該計画区間（L=7.0km）の河川改修事業に着手。</p> <p>●堤防の新設や河道の掘削による河積の拡大を行い、栗山町継立地区などの市街地及び農地の浸水被害を防止する。</p> <p>【アウトカム】等</p> <p>●改修の目標とする規模の降雨により浸水するおそれのある家屋数 148戸 → 0戸</p> <p>●改修の目標とする規模の降雨により浸水するおそれのある農地面積 174ha → 0ha</p>								
事業概要	阿野呂川は、夕張川合流点から4.0kmの区間、支川のボンアノロ川は阿野呂川合流点から3.0kmの区間、合計7.0kmの区間について、堤防の新設や河道の掘削による河積の拡大を行うものである。	工事費内訳	計画流量 Q=240m <sup>3</sup> /s（支川：ボンアノロ川 Q=85m <sup>3</sup> /s）	(百万円)	(百万円)	(百万円)			
			計画延長 L=7,000m	前回評価	今回評価	増減額			
			築堤工 L=6,131m	408	408	0			
			掘削工 L=7,000m	1,093	1,890	797			
			護岸工 L=6,553m → L=9,303m	939	2,156	1,217			
			附帯工事						
			道路橋N=7橋	890	890	0			
			測量設計費 調査・設計	937	1,009	72			
			用地費及補償費 用地買収・物件補償	385	385	0			
			計	4,652	6,738	2,086			
総合計画での位置付け	総合計画の体系	大項目	中項目	小項目	施策名				
		生活・安全	強靱な北海道づくりとバックアップ機能の発揮	大規模自然災害に対する北海道自らの脆弱性の克服	大規模自然災害対策の推進（強靱化）				
特定分野別計画等での位置づけ	施策目標・方針	【計画名：北海道強靱化計画 P28】 （河川改修等の治水対策） 河道の掘削、築堤、放水路、ダム、遊水地の整備などの治水対策について、近年の大雨災害等を勘案した重点的な整備を推進する。							
	関連する指標	-							

## II 公共事業評価経過

（単位：百万円）

事業経過	事業採択	着手	評価年度	完了予定	経過年数	事業費	総事業費(a)	道負担額	当該年度事業費	累計事業費(b)	進捗率(b)/(a)
							3,342	1,114			
事前評価又は当初	H11 (1999)	H11 (1999)		H27 (2015)							
前回再評価	H11 (1999)	H11 (1999)	H30 (2018)	H35 (2023)		4,652	1,551		4,075	88%	
今回評価			R4 (2022)	R7 (2025)	23	6,738	2,246	240	5,881	87%	

### 変更理由・内容（概要）

- (1) 掘削残土の搬出先変更に伴う運搬距離の増による増額
- (2) 掘削箇所における河岸侵食防止のための護岸工追加による増額
- (3) 資材及び労務単価や消費税率の変更による増額
- (4) 事業費の増額に伴い残事業の施工期間精査による事業期間延伸

## III 事業採択前の状況

1. 事業採択に至る経過と背景	<ul style="list-style-type: none"> <li>● H 6年（1994年）8月 浸水被害が発生（浸水家屋 4戸、浸水農地3ha） ※ボンアノロ川</li> <li>● H 8年（1996年）8月 浸水被害が発生（浸水家屋 1戸、浸水農地3ha） ※ボンアノロ川</li> <li>● H 9年（1997年）8月 浸水被害が発生（浸水家屋 2戸、浸水農地3ha） ※ボンアノロ川</li> <li>● H10年（1998年）9月 浸水被害が発生（浸水家屋4戸、浸水農地4ha） ※ボンアノロ川</li> </ul>															
2. 事業検討の経緯（住民ニーズの把握等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>● H 6年（1994年） 栗山町より道に阿野呂川改修の要望</li> <li>● H 9年（1997年） 栗山町より道にボンアノロ川改修の要望</li> <li>● H11年（1999年） 改修事業に着手</li> </ul>															
3. 事業効果を及ぼす地域・対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 栗山町継立地区など 氾濫防止面積 224ha（うち農地174ha）、浸水防止家屋 148戸</li> </ul>															
4. 関連する事業	<table border="1"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>事業主体</th> <th>事業期間</th> <th>事業費（百万円）</th> <th>事業内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	事業名	事業主体	事業期間	事業費（百万円）	事業内容										
事業名	事業主体	事業期間	事業費（百万円）	事業内容												

#### IV 事業の実施状況

(1) 事業実績及び今後の計画														
施工(工種)区分	工事内容	H11	H12	H13	H14	~	H30	~	R4	R5	~	R7	進捗状況	事業費(百万円)
築堤工	L= 6,131m				←		L=6,131m		→				100%	408
掘削工	L= 7,000m	←					L=5,690m					→	81%	1,890
護岸工	L= 9,303m	←					L=7,120m					→	77%	2,156
附帯工事	道路橋N=7橋	←					道路橋7橋		→				100%	890
測量設計費	調査・設計	←							→				100%	1,009
用地費及補償費	用地買収・物件補償		←				75件		→				100%	385

(2) 進捗状況  
 阿野呂川は、3号橋下流までの4.0km区間、ポンアノロ川は、阿野呂川合流点より1.8km区間の整備を完了。  
 護岸工の追加、土砂運搬箇所の変更等により事業期間を延伸しているが、残事業量を踏まえて事業期間の見直しを行っており、今後は順調に進捗していく見込みである。

**b** a: 概ね予定どおり実施している。 b: 事業計画・期間等を変更し実施する。  
 c: 問題が生じ、実施に支障をきたしている。

経済効果の内訳(百万円)		費用の内訳(百万円)		備考
項目	R4現在	項目	R4現在	
洪水被害防止効果	111,722	建設費	11,156	●「治水経済調査マニュアル(案)」(国土交通省R2(2020))に基づき算出 ●効果及び費用はR4(2022)に現在価値化し、「整備期間+完了後50年間」で算出 ●費用は、現在価値化及び50年間の維持管理費の計上により総事業費と異なる。
		維持管理費	36	
合計(B)	111,722	合計(C)	11,192	
B/C	前回算定年度 : H30年度(2018年度)【再評価】 前回算定時B/C : 5.26 変更理由 :			
R4現在	●事業費の増額に伴う費用の増加 ●完了予定年度の延伸に伴う効果及び維持管理費の増加 ●治水経済調査マニュアルの改定に伴う便益算定方法の見直しによる効果の増加 ●効果及び費用をR4に現在価値化したことなどによる。			
9.98				

取組の項目	取組内容	縮減額(百万円)
施工の最適化	工事で発生したコンクリート殻のかごマット等の中詰材への再利用	18

#### V 評価

1. 必要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 本事業は、栗山町継立地区などの市街地及び農地の浸水被害を防止するためのもの。</li> <li>● 事業採択後もH13年(2001年)9月(浸水農地10ha)に浸水被害が発生。</li> <li>● 事業の必要性に変化はなく、着実に事業の推進を図る必要がある。</li> </ul>
<b>a</b>	a: 事業の必要性に変化はなく予定どおり事業を推進する。 b: 着工後の状況変化により事業計画の変更が必要である。 c: 着工後の状況変化により事業推進の是非を判断する必要がある。

2. 事業を推進する上での課題	(1) 環境上の配慮及び課題 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 魚類等に配慮して現況河床や現況河岸を極力保全している。</li> <li>● 河畔林を極力保全している。</li> </ul> ※前回の再評価以降における状況変化はない。
	(2) 事業推進に対する住民の動向 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 栗山町から事業の早期完成に向けて毎年度要望が出されている。</li> </ul> ※前回の再評価以降における状況変化はない。
	(3) その他の課題 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 特になし</li> </ul> ※前回の再評価以降における状況変化はない。

3. 事業達成の見込み	前回評価から事業期間を2年延伸しているが、事業の必要性に変化はないほか、事業を推進する上での課題等もなく、前回評価から大幅に事業が進捗していることから、予定年度での事業達成が見込まれる。
<b>a</b>	a: 現時点では事業の進捗に影響する課題はなく、達成が見込まれる。 b: 課題はあるものの達成は可能である。 c: 大きな課題があり達成には相当の困難が予想される。

4. 対処方針	事業の必要性に変化はなく、地元からの早期完成要望も受けているため、令和7年度(2025年度)の完成を目指し、事業継続する。				
<b>a</b>	a: 継続    b: 終了    c: 休止    d: 中止				
事業期間変更の有無	有	事業内容変更の有無	有	総事業費変更の有無	有

## VI 備考

1. 評価履歴	【評価結果】 再評価 : 平成30 (2018) 年度評価 評価結果 : 継続 (変更なし) B/C=5.26
	【特記事項】
2. その他の取組事項	

## 補足資料

### VII 事業計画変更

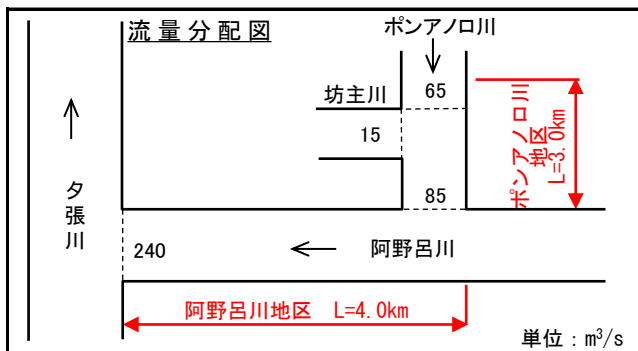
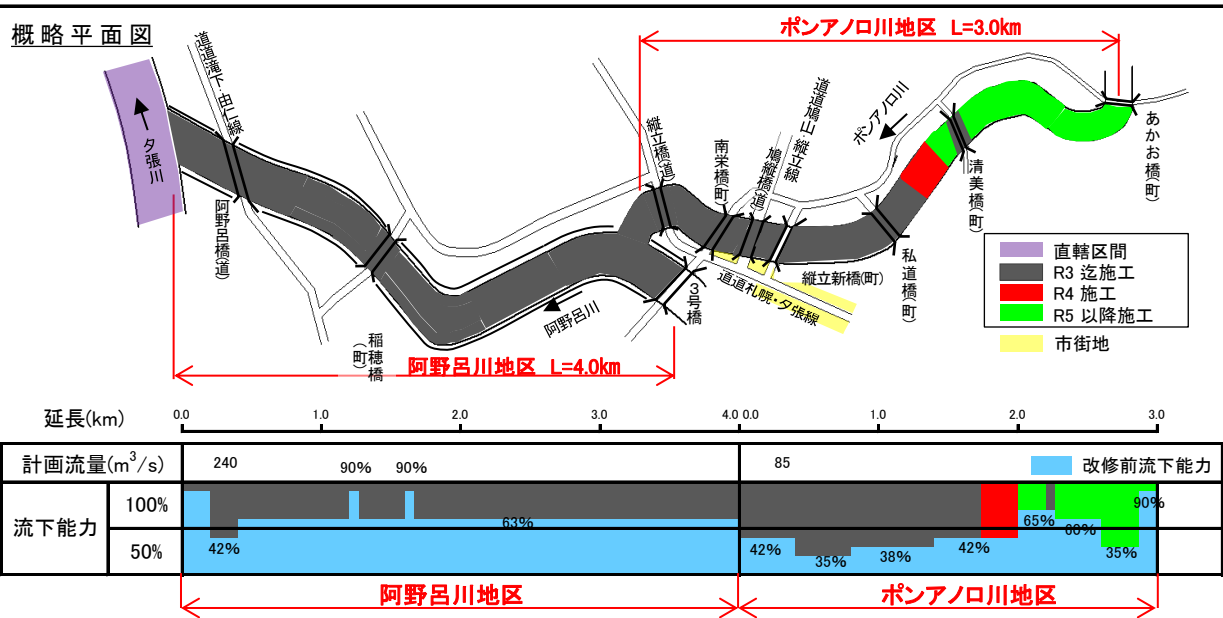
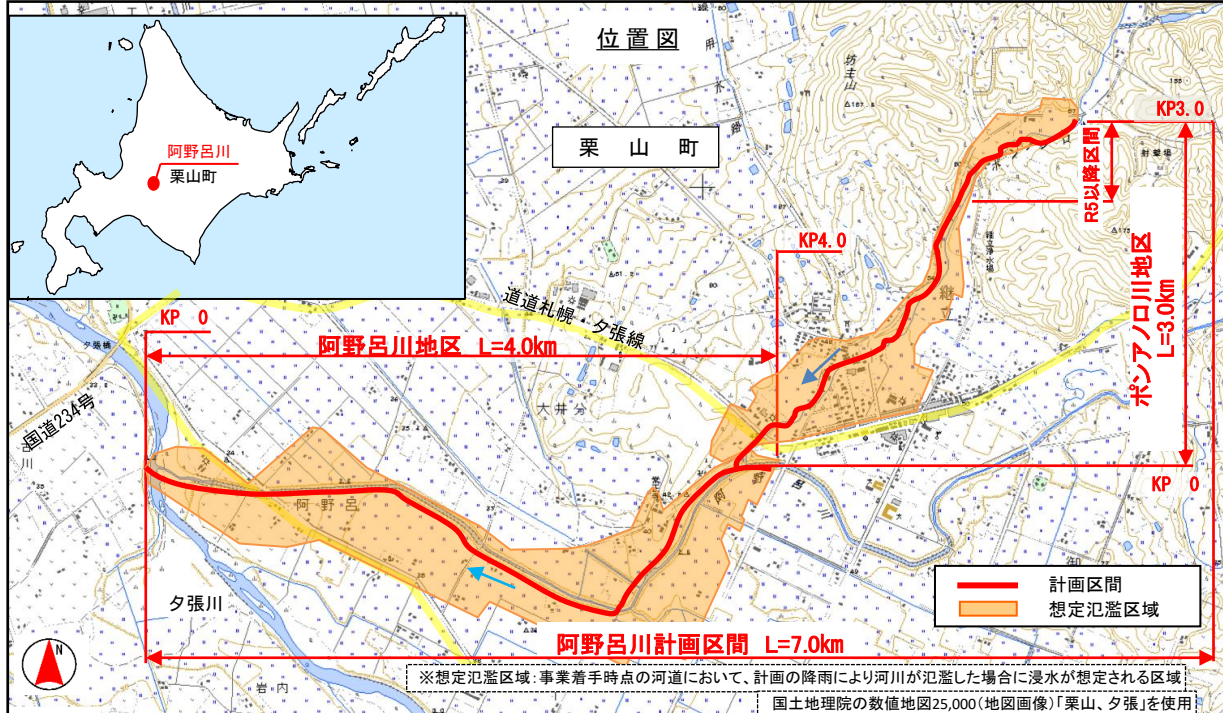
(単位 : 百万円)

事業経過							事業費					
	再評価	事業採択	着手	評価年度	変更年度	完了予定	経 過 年 数  23	総事業費 (a)	当該年度 事業費	累計事業 費 (b)	進捗率 (b)/(a)	
事前評価 又は当初		H11 (1999)	H11 (1999)			H27 (2015)			3,342			
変更①	1回目	H11 (1999)	H11 (1999)	H20 (2008)	H20 (2008)	H30 (2018)			4,148			
変更②	2回目			H25 (2013)	H25 (2013)	H33 (2021)			4,348			
変更③					H28 (2016)	H33 (2021)			4,570			
変更④	3回目			H30 (2018)	H30 (2018)	H35 (2023)			4,652			
変更⑤					R1 (2019)	R6 (2024)			5,642			
変更⑥	4回目			R4 (2022)	R4 (2022)	R7 (2025)			6,738	240	5,881	87%
変更⑦												
変更⑧												
変更⑨												
変更⑩												
変更理由・内容												

- 変更① : 事業期間・総事業費の変更  
 ・H12年(2000年)、H13年(2001年)の洪水により河岸が侵食され、護岸の増工が必要になったことによる増額  
 ・農業事業との年次調整に伴う事業期間の延伸
- 変更② : 事業期間・総事業費の変更  
 ・河岸侵食防止のための護岸工の増工などによる増額  
 ・残事業の施工期間を精査したことによる事業期間の延伸
- 変更③ : 総事業費の変更  
 ・危機管理型ハード対策としての堤防天端舗装を追加したことなどによる増額
- 変更④ : 事業期間・総事業費の変更  
 ・資材、労務単価の上昇や消費税率の変更による増額  
 ・残事業の施工期間を精査したことによる事業期間の延伸
- 変更⑤ : 事業費の増額  
 ・阿野呂川における掘削残土の搬出先変更に伴う運搬距離の増による増額  
 ・阿野呂川の掘削箇所における河岸侵食対策としての護岸工追加による増額  
 ・残事業の施工期間を精査したことによる事業期間の延伸
- 変更⑥ : 事業期間・総事業費の変更  
 ・ボンアノロ川における掘削残土の搬出先変更に伴う運搬距離の増による増額  
 ・阿野呂川、ボンアノロ川の掘削箇所における河岸侵食対策としての護岸工の追加による増額  
 ・資材、労務単価の上昇や消費税率の変更による増額  
 ・残事業の施工期間を精査したことによる事業期間の延伸

# 事業概要図

事業名	広域河川改修事業費 (社会資本整備総合交付金)	地区名	あのろがわ 阿野呂川	採択年度	H11 (1999)
-----	----------------------------	-----	---------------	------	---------------



計画諸元

河川名	阿野呂川	ポンアノロ川
流域面積(km <sup>2</sup> )	77.0	11.1
計画延長(km)	4.0	3.0
氾濫面積(ha)	169	55
計画雨量	38.2mm/hr	
計画高水流量(m <sup>3</sup> /s)	240	85
計画勾配	1/340	1/170~1/92

